



国立大学法人豊橋技術科学大学
開学30周年記念事業
—確かな礎から未来へ—



第7回東三河サイエンスカフェ

2008年2月7日(木)

午後6時30分～8時00分

豊橋駅前サテライトオフィス

<http://www.ita.tutkie.tut.ac.jp/~kawai/cs/>

サイエンスカフェは、講演会や体験講座とは違い、ゲストスピーカーやほかの参加者とのフランクな語らいを楽しむ場です。どうぞ、サイエンスについて語らう楽しみを満喫してください。

江戸時代をのぞいてみよう —川柳をとおして知る江戸の暮らし—

世界一の人口を抱えた大都市江戸、18世紀初めには100万人が暮らしていたといわれています。(参考：ヨーロッパ第一の都市といわれたロンドンの人口が85万人。)徳川家康が江戸入りしてからおよそ100年の間に町も人も急激に膨張していったことがわかります。こうした急激な人口増加の理由としては、職を求めて地方から多くの男性が流れ込んできたことがあげられます。そのため男女比はきわめてアンバランス、ちまたには独身男性があふれていたことでしょう。我々が知る江戸は、暴れん坊將軍吉宗や遠山の金さん、長谷川平蔵が活躍する町であり、悪徳商人と結託するお奉行様が水戸黄門に懲らしめられる時代ですが、実際の庶民の暮らしはどうだったのでしょうか。川柳には江戸の町につつましく、しかしたくましく生きる人々の生活の様子が生き生きと描かれています。また、わざとわかりにくい表現でなぞなぞ遊びを楽しんだり、歴史的な事件や古典を題材に言葉遊びをしたりと当時の人々の知的レベルもまたうかがうことができます。

神代にもだます工面は酒がいり
色白な兵(つはもの)二人出て防ぎ
やはやはと重みのかかる芥川
やせこけた死骸があるとわらび取り
目と耳は只だが口は銭がいり
そこが江戸小判を辛子みそで喰い

それではいっしょに川柳の謎解きといきましょう。

★ゲストスピーカー：

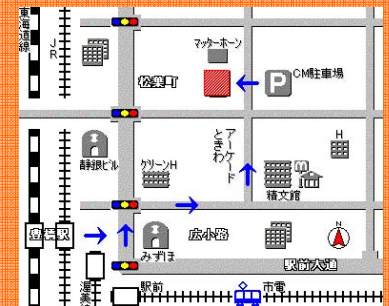
梅藤 仁志 先生
愛知県立
時習館高等学校

★先生のご専門：

国語

★先生からの一言：

高校の古典の授業では扱うことがない川柳を取り上げてみました。まじめなものからちょっと恥ずかしくなるようなものまで実に多様です。江戸の雰囲気や少しくとも楽しめたらと思います。



★会場(豊橋技術科学大学豊橋駅前サテライトオフィス)：豊橋駅から、広小路どおり、ときわアーケードを通り抜けた先の左側にあります。駅から徒歩5分。
電話：(0532)55-8252

★対象：高校生以上どなたでも。参加費無料。定員20名。定員に達し次第しめきります。

事前に参加申込をしてください。

★申込：参加希望の方は、「第7回参加希望」と明記し、「氏名」「年齢」「連絡先(電話番号またはメールアドレス)」をお書きの上、下記のメールアドレスまたはFAXあてお申込みください。

東三河サイエンスカフェ事務局
メール：chiren@office.tut.ac.jp
FAX：(0532)44-6509
申込〆切：2月6日(水)正午

★ご連絡いただいた個人情報、申込受付等の連絡業務にのみ使用します。